

「五衰」

木の五衰という現象があります。

1. 懐の蒸れふところ (枝葉が茂り過ぎ風通しが悪くなり枝葉が蒸れて、枯れはじめる状況)
2. 裾上がりすそ (木が弱くなると根が浅くなり根が上がってくる状況)
3. 末枯れうら (木の生長が止まり、頭から枯れる状況)
4. 末止まりうら (梢が枯れる状況)
5. 虫食い (害虫がつく状況)

これを人や社会に例えるとどうでしょう。

1. 懐の蒸れは、平和、豊かさ、情報過多の環境が、かえって社会を複雑にしすぎて人材が育ちにくくなっている状況
2. 裾上がりは、甘い環境が続きすぎると、逆境に弱い人間が増える状況
3. 末枯れは、若いうちから向上心を失い、いわゆる若 朽 という状態の人が増える状況
4. 末止まりは、人が育たなくなってくると、組織も国家も活力がなくなり、衰退してくる状況
5. 虫食いは、組織も、国家も、正常さを失って、さまざまな弊害が頻発する状況

と言えないでしょうか。

昨今、IT、AIといったテクノロジーの進化が著しく、社会とその価値観の変化がすさまじいスピードで変わってきています。

そして、それと反比例するかの様に、国家も組織もリーダーたる人達のレベルが著しく劣化してきつつあり、その事が、自分(自国)の利権のみのパワーバランスと、真偽の定かでない情報が氾濫し、それに人間が振り回される状況が加速化している様に思えてなりません。

私はリーダーの資質は、

あくまで「大義ある志」を持っている前提下、その思考と行動においては

1. 物事を広く観る
2. 事象を中長期的に観る
3. 深く考え抜く
4. 勇気を持って決断する
5. 決断を断行する
6. 忍耐強くやり続ける

といった事に有る様に思います。

情報過多で、知識や技術偏重の時代の中で不易(変えてはいけないもの)まで失くしつつある昨今、人間としての志や根本的な信念までゆらぐ様ではいかかなものかと思えます。

こういう時代にこそ、真の学問をする時間が必要な気がします。

荀子は

それ学は通の為にあらざるなり

窮して困します

憂えて 意 衰 えざるが為なり

禍福 終始を知って 惑わざるが為なり

(学問は、それをひけらかす為にするものではない

窮地におちいても苦まず

憂い事があっても心が落ち込んだりない

良い時も悪い時も、必ず終りがある事を知っていて

一喜一憂しない為にするものである)

と言っています。

時代に振り回されない自己を、今こそ鍛練しておきたいものです。

徳真会グループ
代表 松村 博史



撮影場所：兵庫県朝来市